

施政方針から

成熟し、自立した都市として 3つの気概を持ち 新たなまちづくりに取り組みます

2月27日、平成29年第1回津市議会定例会の開会に当たり、前葉泰幸市長が施政方針を述べました。今号では、その主な内容を掲載します。なお、施政方針の全文は、津市ホームページでご覧いただけます。

津市 施政方針

合併時に約束されていたことを形に

津市の合併後、5年余が経過した時点で私は市長に就任し、その後の市政の舵取りという重責を担ってきました。合併時に10市町村が思い描いていたまちの姿を実現すべく、一つ一つの望みや願いを着実に形にして市民の皆さまにお届けすることで、これまで全力を尽くしてきました。



施政方針を述べる前葉泰幸市長

4大プロジェクトを中心とした着実な事業の推進

- 新斎場「いつくしみの杜」、新最終処分場・リサイクルセンターが供用を開始し、JR名松線が全線復旧
- 産業・スポーツセンターは今年10月にオープン
- 雲出伊倉津町の防災物流施設が供用を開始
- 応急クリニックが今年4月に稼働

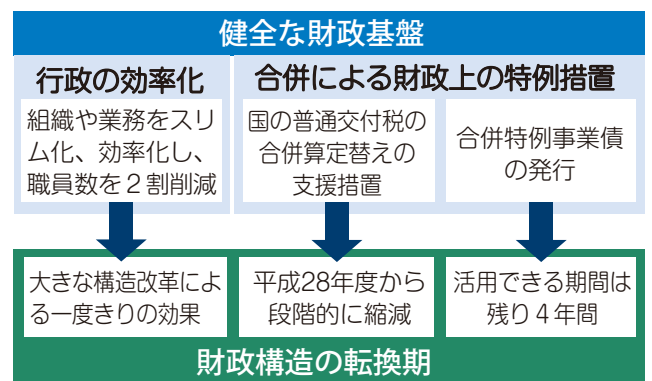
各地域の最重要課題として引き継いだ20事業の実現

- 美杉総合文化センター、白山消防署一志分署などの整備
- 一志中学校校舎の大規模改造工事が今年3月に完了
- 久居駅周辺地区のまちづくりの着実な取り組み

財政構造の転換期を迎えて

合併時に約束されていたことを形にすると同時に、合併によるメリットを最大限に生かし、健全な財政基盤を築くこともできました。

しかし、合併から11年が経過し、財政的な制度上の支えがなくなる時期が次第に近づいてきており、津市は今、財政構造の転換期にあります。



自立した都市へ

将来のためにやらなければならないことを自らで決定し、歩むべき道を明らかにして、ゆるぎない市政を展開

自立した都市として

これからは、成熟した都市として自立していかなければなりません。

平成29年度は、自立に向けた**3つの気概**を持って、心新たに市政に臨みます。

自立に向けた3つの気概

- 1 市民の皆さまの期待に応えると同時に将来への安心感をお届けすること
- 2 懸案事項や新たな課題に果敢に挑戦すること
- 3 身近な望みを丁寧にきめ細かくかなえていくこと